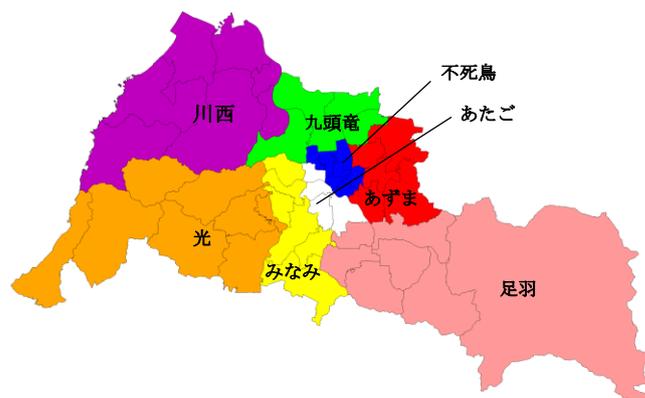




福井市公民館一覧

ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	
あたご	1	木田	木田1丁目1401	36-0042	6号	光	28	安居	本堂町7-4	37-1234		
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一光	下一光町6-5	37-0168	5号	
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041			30	殿下	風尾町1-13	97-2377		
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越廼	栄崎町1-68	89-2182		
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560		
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510		
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458			34	清水南	風巻町21-17	98-4590		
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085			35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477		
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040			川西	36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364				37	国見	鮎川町195-7	88-2004	4号
	11	日新	文京5丁目1-8	21-7225	3号			38	鶉	砂子坂町5-58	83-0433	
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	38-0043		39		棗	石橋町4-14	85-1495		
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566	4号	40		鷹巣	蓑町16-2-1	86-1001		
	14	社南	種池2丁目206	35-9559		41		本郷	荒谷町19-55	83-0582	6号	
	15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号	42		宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150		
	16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号	足羽	43	酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503		
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383	6号		44	一乗	西新町1-31	43-2001		
あずま	18	和田	御幸4丁目9-20	22-0038			45	上文殊	北山町34-1	41-0516	3号	
	19	円山	北今泉町7-12	54-0048	5号		46	文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号	
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046			47	六条	天王町43-4	41-1001		
	21	岡保	河水町10-13	54-2519		48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	5号		
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039		49	美山	美山町2-12	90-7111			
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040		50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号		
	24	中藤島	高木北2丁目1001	54-0045								
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001								
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号							
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880	4号							



## 《福井市の公民館に思う》



### 日本一の公民館を目指して

元福井市公民館運営審議会連絡会会長・元福井県公民館連合会会長  
元福井市公民館連絡協議会会長・前福井市啓蒙公民館館長

野路 武夫

私が公民館と関わりをもったのは、今から55年前の昭和36年4月に啓蒙公民館の主事を拝命したのが始まりです。ちょうど福井市の「公民館設置及び管理等に関する条例」が前年度に施行され、「福井市公民館連絡協議会」が結成されました。いよいよ福井市の公民館活動が表舞台に出た頃でもあったので、私なりに興味も湧き、公民館との新たな人生をスタートさせました。河野悟館長の温かい指導を受けながら、社会教育の基本について自らも進んで学び、実践活動を通して、地区住民の学習の機会づくりや活動の支援をするという公民館の役割について理解を深めていく6年間の主事時代でした。

その後は、地区内の団体やPTAなどのお世話をさせていただきながら、やがてまた「公民館運営審議会」の委員としての立場での役割が与えられ、平成6年度からは「公民館運営審議会連絡会」の会長職にも就くことになりました。福井市全体の公民館活動の質的な向上を目指すべく、課題の把握とその解決に向けた研究討議を進めると共に、委員全員を総会の参加者とするなどの改革を行い、幅広い様々な意見の集約に努めました。

平成13年4月からは地元の公民館長となり、実戦部隊の職員として、主事さん方と共に、理想的な公民館像を探る挑戦が始まりました。ブロックのみならず他地域の公民館活動の事例に学び、県内、北陸・東海をはじめ全国公民館研究集会などにも積極的に出向き、自館の取組や悩みなどを披歴し、意見を求める努力を重ねてきました。そのうち、公民館の「評価」が全国的に話題となり、その事例として発表の依頼が、東京上野の森にある「文部省の社会教育研修所」からあり、出向いて行きました。その後も公民館の全国大会などの司会や発表者としての機会に恵まれ、全国の状況の把握にとっても参考になりました。

平成21年度からは、市公民館連絡協議会のお世話もすることとなり、福井市の公民館体制の更なる充実を図るため、また職員の資質アップのため、地元大学の公開講座に参加する熱心な主事さん方が、「社会教育主事」としての資格が確保できるよう、文部科学省や大学を訪問し、実態の説明とその実現に向けて東奔西走したことは、今でも思い出深いものがあります。常に学び続ける館長・主事・公民館運営審議委員、そして地元住民がいて公民館は成長していくものだという信念で事にあたってきました。

福井市方式とまで言われる今日の公民館体制は、福井市の社会教育行政の深いご理解とご指導、そしてそれに一生懸命応えていこうとする公民館職員の皆さん、そしてこれらの教育事業や活動を第三者としてしっかり見守り意見する運営審議会委員の皆様の連携があってこそと信じています。

今後とも住民の知識教養の向上だけでなく、生きる力を養い、一歩前に踏み出すことに繋がる学びの場となり、社会の諸課題に共に知恵を出し合える「公民」を育てる「日本一の公民館」を目指して、皆様方の更なるご活躍をご期待申し上げます。

## 人と人、人と地域を結ぶ

### — 住み続けたいまち「木田」をめざして — 木田公民館

#### 1 木田地区の概要

木田地区は、福井市を流れる足羽川左岸にあり、木田橋・板垣橋・足羽大橋の南に広がっている。

その歴史は古く、木田遺跡（今の新木田公園）からは、弥生時代後期から古墳時代初めの土器や鍬の柄、勾玉などが出土しており、弥生時代には集落が営まれていたことがわかる。中世になると、奈良興福寺の荘園となり、「木田荘」と言われた。明治以降も「木田村」として、農村的景観を残したまま豊かな水田地帯として発展してきた。

大正14年に福武電気鉄道が開通し、昭和11年には福井市に合併し「木田地区」となった。その後、市街地の拡大にともない、住宅地の増加と田畑の減少が徐々に進み、今に至っている。

平成16年7月18日の福井豪雨では、木田地区（春日1丁目）で足羽川堤防が決壊し、地区の1,352戸が全壊、半壊、床上・床下浸水などの被害を受けた。今は完全に復興し、新たな人口の流入が多くなっている。

地区内には、医療機関、商業施設等が多く、子育て支援施設や文化・教育施設も近くにあることから、特に最近では、子育て世代の増加が著しい。

平成28年8月1日現在、世帯数は5,244戸、人口は14,018人である。

#### 2 「集い・学び・結ぶ」～地域を支え、つなぐ～

##### (1) 学び合いで伝える伝統野菜による「郷土学習」

木田地区では、「木田ちそ、木田青かぶ、板垣大根」が古くから栽培されている。これらは「福井の伝統野菜」に認定されているが、市街地化が進むにつれて栽培農家の減少や高齢化が進んでいる。

木田公民館では、この伝統野菜を絶やすことのないように、また、若い世代にも伝統野菜について知ってもらおうと、郷土学習を開催してきた。子どもから大人までが参加し、公民館の畑で、種まき・間引き・除草・収穫・料理を体験し、農家の苦労と収穫の喜びを感じるとともに伝統野菜の特徴やよさを学習している。

「木田ちそ」は、150年ほど前から栽培されていて、ちぢれが強く、肉厚で色が濃く風味がよいので、梅干しづくりに欠かせない赤紫蘇である。調理実習では、ちそジュースや梅干しづくりの他、様々なスイーツや料理を学習した。昨年はジュースで使った葉っぱを美味しく食べる方法も学び、ゴミを減らす工夫も知った。

「木田青かぶ」は、しばらく途絶えていたが、地区の農家によって生産が復活した。これも栽培から体験し、年末に雑煮等の調理を行っている。

「板垣大根」は、細身で辛みのある大根で、今年度は伝統料理の「するめ大根」や「おろしそば」にして味わう予定である。

このような郷土学習を継続する中で、新しい広がり生まれた。学んできたことをミニレシピ本「木田ちそをおいしく食べよう」にまとめて配布したところ、多くの方がレシピを活用してくださり、「木田ちそ」のよさを伝えることができた。福井市の他の地区でも、ちそジュースづくりが広がり始め、「木田ちそ」のよさが他の地区にも認められてきていると感じる。

このような学び合いを通して、地域文化への理解や地区に対する誇りと愛着心を育み、木田の伝統を守り伝えていくことができると考える。



【木田ちそ、木田青かぶの収穫】

##### (2) 地域を結ぶ「げんきだ・やるきだ・クリーン木田」

木田地区では、地域コミュニティのさらなる活性化と、人と人、人と地域を結ぶ「絆」づくりに取り組んでいる。各自治会から選出されたまちづくり委員が中心となり、関係団体との密接な相互協力の下、地区の住民が、誇りと夢をもち、のびのびと・楽しく・安心して住めるまち「木田」をめざし、3つの部会で様々

な活動を行っている。

#### ○「げんきだ」【福祉部会】

地区の高齢者の方に、明るく元気で頑張っていたかくことを目的とし、体操・演芸・語り合いによる「元気の出る会」を開催している。今年度は一人暮らしや男性高齢者の参加を増やし、コミュニケーションを深める場にしていきたいと考えている。

#### ○「やるきだ」【人づくり部会】

新たな人口流入と核家族化が進む中、地域コミュニティの活性化と高齢者の生きがいづくりを目的として、「三世代交流事業」を開催している。

平成27年度は、子ども・保護者・お手伝い委員等を合わせて約300名が参加した。子どもたちは、昔懐かしい伝承遊びとして、「風ぐるま」「わりばしてっぽう」を地区の高齢者の方から教わったり、参加者全員で56mの「ジャンボ長巻き寿司」を完成させたりする中で、交流を深め合った。

また、平成28年3月に、地区住民の心と心をつなぎ、地区をよく理解してもらうことを目的として、広報誌「きだより」を創刊した。年2回の発行で、暮らしに役立つことや地域の課題などの情報を発信し、人と地域をつなぎ、絆を深めるよう努めている。

#### ○「クリーン木田」【環境部会】

地区を花いっぱいにするために、平成7年度から、自治会の方と協力して、公園や街路樹の下に花苗を植える活動を行っている。



【風ぐるま作り】



【明倫中学生と花苗植え】

平成27年度からは、明倫中学校の生徒が、明倫公園で花苗植えや撤去作業に参加し、地区の方と一緒に汗を流している。生徒はプランターカバーも制作し地区に寄贈した。

その他、「花の寄せ植え」や「プランターの土の再生法講習会」、「花のまちづくり視察研修会」、「セイタカアワダチソウの駆除活動」にも取り組んでいる。

このような活動を通し、郷土愛や自然を大切にすることを育んでいる。

#### (3) 木田の若い担い手 青年グループ「きだやっこ」

これまで、若者の地域活動への参画の少なさが課題の1つであったが、平成28年度「きだやっこ」という青年グループを組織化することができた。20代～30代の青年6名が、今年度の「木田夏まつり」



【水てっぽうでやっつける！】

の夜店で「水てっぽうでやっつける！」を担当し、子どもや地区住民とふれ合いながら活動した。

これを一歩とし、今後、さらに多くの若い方が参画し、地区をつなぐ担い手として活躍することを願って支援を行っている。

#### 3 終わりに

木田地区は、年々新しい家庭が増えているが、人口が増加するなかで人間関係が希薄になり、地域活動への関心が薄くなる傾向にある。

このような中、今まで以上に住みよい豊かな地区とするためには、新しい方や若い方々とともに地区の課題を考え、力を合わせて活動を進めていくことが何より大切である。新しい担い手を掘り起こし育成しながら、常に新しい風を入れるよう努力していきたい。

さらに、住民自らが地区の魅力を理解し、元気で活力があり、安心・安全に暮らせるまちづくりへの参画意識を高めつつ、互いに支え合う仕組みづくりや豊かさを育む「地域力」を培い、木田地区を活性化したい。

今後も、公民館として、様々な活動によって生まれた小さな輪をつないで大きな輪へと働きかけ、人と人、人と地域を結ぶ絆を育み、住んでよかったまち・住み続けたいまち「木田」をめざしていきたい。

木田地区の方々には、地区に誇りをもち、住み続けたい地区となるよう様々な活動をされています。また、木田公民館では、ここにあげた活動の他にも、青少年育成の学習「木田っ子クラブ」や家庭教育支援の学習「あんだんて」、ボランティア活動推進学習「フルール」、「男の料理」など、たくさんの学びの場を設定しています。このような地域の人をつなぐ「集い・学び・結ぶ」活動の「要」に、いつも公民館が存在していることに、改めて感銘を受けました。

## 音楽を中心としたまちづくり

### — 観月の夕とハーモニーあそうづアンサンブル —

麻生津公民館

#### 1 麻生津地区の概要



東に霊峰文殊山を仰ぎ、西に豊かな日野川の流れを眺め、南は浅水川から鯖江市鳥羽に連なる麻生津は、古来北国街道の宿場町で交通の要衝として栄えてきた。

今日の麻生津は、JR・福鉄・北陸自動車道・国道8号線・県道福井鯖江線等交通の幹線が縦貫し、福井市の南の玄関口として重要な位置を占めている。交通の利便性から昭和40年代に大規模な住宅開発が進み、一時人口が1万人を超していた時期があった。平成28年8月現在は、2,868世帯・人口8,340人と減少したが、より充実した街に発展している。

地区北部には県立音楽堂（ハーモニーホール）が建設され、音楽ファンの憩いの場所になっている。

麻生津地区は、水と緑、歴史と音楽が調和した豊かな街に変貌を遂げようとしている。

#### 2 音楽を中心としたまちづくり



元町内と新興住宅地との地区住民同士の調和（ハーモニー）を図ろうと、「音楽を中心としたまちづくり」

事業を展開している。平成6年に福井市が提唱した「うらがまちづくり事業」の中で、平成9年に麻生津地区に県立音楽堂が建設されることが決まったことをきっかけに、「音楽を中心としたまちづくり」に取り組むことになった。

この事業に取り組むために委員会を発足させた。委員会のメンバーとして、小・中学校のPTA、子ども会育成会、体育協会、JA青壮年部、商工会青年部など30代から40代の働き盛りの若手に依頼した。この委員会のメンバーは、公民館に夜8時過ぎに集合し、深夜に及ぶ会議を数十回と重ねた。音楽を中心としたまちづくりは、地区住民の参画・参加により成り立つものであり、一人でも多くの住民を巻き込みたいとの思いから、地区を舞台に、住民が主役となり、みんなで舞台の幕を上げようと事業名を「ハーモニー初舞台」と決めた。地区の歌を募集し、「夢の街マイあそうづ」が完成する。応募総数104点の中から詩が選ばれ、補作詞と作曲を当時の足羽中学校の先生に依頼し完成した。

また、県立音楽堂のこけら落としを飾ろうと、地元中学校の吹奏楽部OBを中心に吹奏楽団「ハーモニーあそうづアンサンブル」を結成した。楽団結成当時は、楽器と数十年離れた生活を送っていた団員がほとんどで、不安いっぱいの出発だったが、県立音楽堂のこけら落としで演奏できる喜びが勝り練習に熱が入り、メキメキ演奏の技量も向上していった。また、「夢の街マイあそうづ」をみんなで歌おうと、楽団が結成されたのを契機に合唱隊も編成した。歌ならだれでも参加できるということで、140名の「ハーモニー歌い隊」が結成された。

ハーモニーあそうづアンサンブルは、平成28年で、結成22年。団員は、30代から60代の総勢30人。団長は、「とにかく楽しく、和気あいあいとした雰囲気なんです」と胸を張る。県内では、公民館単位の地域住民だけによる楽団は珍しい。この楽団はコンクールを目指さず、地域での演奏活動が主体である。体育祭や文化祭、敬老会で生の演奏を披露し、その魅力を伝え

ている。県立音楽堂で開く年一度の定期演奏会に向け、月4～5回の地道な練習を続けている。

### 3 観月の夕

「観月の夕」は、音楽のまち麻生津をアピールし地区住民同士の絆を強めようと、麻生津地区自治会連合会、住民でつくる実行委員会が主催し行っている。今年で12回目で、毎年麻生津小学校の児童が作った四角柱型の行灯を飾っている。今回初めて「行灯を増やして観月の夕を盛り上げよう」と円柱型も作ることにした。県和紙工業協同組合の協力を得て、4月から準備を進めてきた。大きさは高さ15cm、直径9cmで、中にLEDライトを入れて光らせる。今年は、9月24日午後6時から県立音楽堂野外広場で開かれる。



昨年の「観月の夕」の内容を紹介する。平成27年9月26日に、麻生津地区住民による音楽イベント「観月の夕」が開かれた。平成27年のテーマは「挑む」。少し背伸びをしたミュージカルに挑戦した。出演する住民は「音楽のまち麻生津の魅力を多くの人に伝えたい」と本番に向けて連日、練習を重ねてきた。平成26年の「観月の夕」のあとの企画会で、住民からミュージカルに挑戦したいという声が上がって採用された。披露するミュージカルは「サウンド・オブ・ミュージック」で、地区の若者がブロードウェイでミュージカルを学ぶというストーリー。麻生津版サウンドオブミュージックを、台本作りから始め、練習を重ね、オール麻生津で演じた。小学生から70代までの総勢約100名が出演し、8月中旬から週1～2回、公民館に集まり約2時間稽古に励んできた。仁愛女子高校音楽科講師の方の指導で、「ドレミの歌」「エーデルワイス」「すべての山に登れ」など5曲を、ハーモニーあそうづアンサンブルの演奏に合わせて、歌や動きを確認した。出演者は、「最初はせりふや歌詞を覚えるのに苦戦した。今では楽しく稽古しながらお互い高め合っている」と胸を張

る。

本番では、コミカルな演技、躍動感のある歌と踊りを披露し、「音楽のまち麻生津」の魅力を客席に届けた。手作り感と温かみにあふれる舞台構成で、多くの観衆を楽しませた。主催した地区自治会連合会長は、「みんなでミュージカルをすることが夢だった。若い世代を中心に熱意が実った」と感慨深げに話した。また、観月の夕実行委員長は、「若い世代が多く参加してくれて頼もしく感じる。これからの麻生津を盛り上げてくれるに違いない」と目を細めていた。

一方、県立音楽堂野外広場では、「1坪エキスポ」と題し、自由に表現する1時間限りの展覧会を開催した。1坪という限られたスペースで、ダンスやゲーム、読み聞かせを発表した。そして、「観月の夕」にはなくてはならない「夢あかり」の幻想的な灯りには、麻生津小学校児童が手すきで作った和紙に、「挑戦」をテーマに絵を描き、夕方6時の点灯時には、朝六つ子供太鼓の音色とともに灯りが灯された。フィナーレには花火も打ち上げられた。

### 4 終わりに

平成28年の「観月の夕」のテーマは、「みんなでやろっさ」。麻生津小学校の全校児童が願いを込めて描いた和紙が、夢あかりの回廊になる。県和紙工業協同組合の方に講師をお願いし、図工の授業の一環として、多くのボランティアの協力のもと、児童は紙すき体験をした。児童の上達ぶりに感心しながら、多くの方々の協力に感謝、感謝。

住民同士の調和を図ろうと、「音楽を中心にしたまちづくり」事業を展開してきたが、現在では、若い力も加わり成果が上がってきていると自負している。

今後も各種団体と連携を密にして、さらなる地区住民同士の調和を深め、活性化させていきたい。

今回は、「音楽を中心にしたまちづくり」を中心に掲載しました。紙面の都合上、他の事業を取り上げることはできませんでしたが、今年完成した「ふるさとかるた」、今年8月で375号になる広報紙「マイあそうづ」など大変充実した活動内容です。ホームページも毎月更新されていますので、それを読むと麻生津公民館の他の事業もよくわかります。

詳しくは、毎月更新しているホームページをご覧ください。

## 人とひとで育む めくもりの郷「ほんごう」

— 連携・協働で地区の活力を —

本郷公民館

### 1 地区の概要

本郷地区は、福井市街地より西に13kmに位置し、東西の広い地域に18の集落が点在している。丹生山地の最北端部分にあたり、集落と農地は南北にクサビ状の形をしている。



【七瀬川の清流】

古代から国見岳の麓を源流として、七つの川が注ぎ込み七つの瀬をなすことから名付けられた「七瀬川」が、村を潤し流れている。

また、地区のあちこちに「名水」と呼ばれる清水や美しい滝が存在するなど、水に恵まれた地区である。

年々過疎化が進んできていたが、平成14年に市街地まで15分の「西郷トンネル」が開通、平成17年には上郷・下郷両小学校の合併による本郷小学校が開校、住宅団地「ネオポリス本郷」の誕生などが続き、人口減少に歯止めがかかった。さらに、温泉付き身障者施設「七瀬の郷」の創設、いちじくなどの特産品づくり、乗馬体験のできる「ほんごう馬の里」、農業体験のできる「あぐりパークほんごう」など、新しい名物や名所ができ、脚光を浴びている。

現在は、人口1,200人余りで、増加傾向にある。

### 2 郷土学習で活力を

#### — 「郷（さと）の探歩会」の活動 —

本郷地区には、「地区史」に類するものがなく、歴史調査などは殆どなされていない。しかし、伝説や遺跡などは地区内に多く存在している。これらについて詳しく学習・調査することで、住んでいる「ふるさと」を知り、住民の理解と関心を高めようと、「郷の探歩会」という自主学習グループが発足した。

自分たちで「探し歩く」ことを目指して、活動を進め、成果を毎年、冊子やパンフレット等にまとめている。それらは、地区の貴重な資料となっている。

#### ① 「ふるさとを訪ねて」(平成24年)

お宝マップとして、遺跡・遺物や伝説が残る祠等に新しくできた名所等を加え、地図上にまとめた。

#### ② 「本郷ふるさとの名水」(平成25年)

本郷を潤す豊かな水に関わる川・名水・滝をパンフレットにまとめた。

#### ③ 「本郷 郷のカルタ」(平成26年)

「ふるさと自慢 郷のカルタ解説書」



【郷のカルタ】

地域の歴史や特色を表現した「カルタ」と解説書を、会員の手づくりで作成した。小学校では、子どもの地域理解のために、授業等で利用されている。

#### ④ 「写真で見るふるさと」(平成27年)

「本郷幼小学校創立10年」「戦後70年」の記念として、歴史写真集として発刊した。地区住民よりの貴重な写真の提供を受け、充実した内容となった。

#### ⑤ 「郷の家紋」(平成28年)

本郷は歴史的に未知の部分が多い地区であり、その隠れた歴史を探るため、地区全家庭の家紋調査を行い、冊子にまとめた。

さらに、史跡や地区の案内看板の設置も進めていて、本郷公民館をはじめ、各種団体との連携・協働の下に、地区に多くの誇るべきものがあることを、住民や子どもたちに強く意識づけることができた。

### 3 「龍興寺史跡」の活用で活力を

龍興寺は、1430年頃、安居代官藤原清長により創建され、一向一揆の放火のため廃寺となるまで約140～

150年間繁栄した大寺であった。曹洞宗の寺として八幡町南東に建立されて、最盛期には七堂伽藍を誇った名刹といわれた。寺跡には古井戸、礎石の数々、崩れた十数基の五輪塔、多くの石仏がその面影をとどめている。



【龍興寺史跡での記念植樹】

この貴重な龍興寺史跡を中心とした事業を進めている。平成27年度は、7月に、「ふるさと

の森と歴史教室」として、「ふるさとの里山を知ろう&環境パトロール」を行い、沿道の植樹・ため池の魚のえさやり・龍興寺史跡探訪などを実施した。また、11月には、「山の恵を楽しもう」として、龍興寺史跡を会場に、練り炭体験・遊歩道散策・ジビエ料理体験を行った。子どもから大人まで、約50名が参加して、自然環境保全と史跡探訪を満喫した。

このような活動が評価され、平成26年度に、「環境保全活動市長表彰」を受けている。

#### 4 「七瀬すこっぱーず」の活躍で地域おこし

「七瀬すこっぱーず」は、団塊の世代が「何か楽しめることを」と、平成19年に結成された。公民館を活動の拠点として、福祉施設訪問や地区内外のイベント等でスコップ三味線を披露している。本郷小学校入口近くに、「すこっぱ三味線の郷」のモニュメントがあり、世界大会で優勝するなど、地区の活力のシンボルとなっている。

自らが楽しむだけでなく、人々に喜びを与えられることを糧に、ボランティアにも活動を広げ、学校及び「七瀬の郷」の草刈り、独居高齢者家庭の雪かきなどを行い、喜ばれている。

今年度、結成10周年を迎え、今後のさらなる活動の強化を目指している。

#### 5 少年の健全育成のために

緑豊かな地域の中で、自然を活用したものづくりや本郷ならではの体験学習を通じて少年の健全育成を目指す取組を進めている。

#### (1) 国見岳キャンプ

公民館の少年教育事業とみどりの少年団の共催事業として、夏休みを利用して実施している。募集対象は、小学3年生から高校生までであるが、小学生の参加がほとんどである。平成27年度は、児童17名・保護者12名とボランティアが参加し、キャンプファイヤーやバーベキューを楽しんだ。今年度は中学生4名の参加が得られるなどの広がりが見られ、子どもの人間関係づくりに成果をあげてきている。

#### (2) まゆクラフトづくり



【まゆでサルのとづくり】

本郷地区には、北陸で唯一、しかも最高級品質の繭玉を出荷している「養蚕農家」がある。その繭を利用した「干支づくり」を公民館の家庭教育事業として、毎年11月に実施している。はじめは、小学生を対象に行われていたが、一般の方からの要望もあり3年前からは子どもから高齢者までが参加するようになった。地元出身の講師の指導で、作業に2時間程度要するが、参加者全員が熱中して取り組み、毎回素晴らしい作品が出来上がっている。

#### 6 終わりに

少子高齢化が進む中で、地区の活性化のための事業を各団体がそれぞれの立場で進めてきた。それらの事業が個々に行われるのではなく、公民館を中心として、各団体や住民の連携・協働で行われてきたことが、大きな成果を得られた要因であると考えられる。

今後も、自治会・各団体との連携をさらに密にし、地区内外に「本郷のよさ」をアピールできる事業を進めながら、「住みよいふるさとづくり」とさらなる活性化を目指していきたい。

これまで、あまり知られていなかった地区の歴史や史跡などに目を向け、新しいことにも挑戦しながら、地区をよくしていこうとする住民の皆さんの強い意欲を感じました。

また、それらの活動をまとめ、支えている公民館の活動が、地区のさらなる発展の原動力になっていくことと思います。

## 福井市の公民館のあゆみ（その5）

### 8. 平成初期の福井市の公民館活動（まちづくりのための住民意識の育成）

平成 元年 国政による「自ら考え自ら行う地域づくり事業（通称：ふるさと一億円創生事業）」

平成 2年 「福井市ふるさとおこし42事業」

市内42地区に一律300万円を交付し、地区単位でのまちづくりの推進に取り組んだ。この事業は、地域で協働して、その地域をよりよくしようとする住民意識を育成するきっかけづくりに役立った。地域に根ざした活動にひたむきに取り組んできた公民館は、優良公民館として文部大臣から連続して表彰をうけた。

平成 3年 中藤島公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

地域の先輩たちが後輩を育てるとい世代間の交流を通しながら、地域について老若男女が一緒になって考え、そして、学習活動や地域づくりに地域が一体感をもって取り組んでいる。

平成 4年 旭公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

地域を流れる荒川の水質検査を小学生が継続的に実施し、その事業を通して地域全体で環境への取り組みや、地域の河川を調べることにより地域の歴史について学び、まちづくり活動に発展させてきている。

平成 5年 東藤島公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

町内にある花壇や個人の庭先に花を植えるなど、地域の環境意識の向上につながる取組として、花いっぱい運動をはじめとした美化活動を地域ぐるみで展開している。

### 9. 福井市の公民館と地域づくり活動（うらがまちづくり推進事業）

平成6年に就任した酒井哲夫市長は、「すべての市民がそれぞれに役割を担い、一人ひとりが参加できる市政を展開すること」を意味する「市民参加・運動会型」市政運営を提唱し、これをまちづくりの具体的施策として事業化した。

平成 7年 「うらがまちづくり推進事業」がスタート

市内43地区（公民館単位）で、それぞれの地域の歴史や伝統・文化、産業等を活かし、地区の魅力や資源を再発見し、継承し、発展させることをめざしたものである。各地域では、性別・年齢を越えて多くの者が、地域の特色を活かした個性豊かな魅力ある地域づくりに取り組むことになった。市のこの取組は全国でも評価され、自治大臣表彰を受けた。

平成 9年 「潤いと活力のあるまちづくり」優良地方公共団体自治大臣表彰（住民参加のまちづくり部門）受賞

平成10年 「うらがまちづくり支援事業」を展開

平成12年 「21世紀わがまち夢プラン」策定

43地区のそれぞれの地域が目的に向かって取組を進めてきたプロセスを経て、まちづくりの新展開をめざす「21世紀わがまち夢プラン」を平成12年度に策定し、平成13～15年度には推進事業に取り組んだ。この事業への公民館の関わりは大きく、一連の「うらがまちづくり事業」を支援し、その取組をきっかけにして成果を得たところが多い。

平成13年 東安居公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

東安居公民館では、少年学級として小学生のころから公民館で活動してきた中高校生のジュニアボランティアの活動が活発で、公民館活動や地域活動の活性化に一役買っている。さらに、住民総ぐるみで取り組んできた河川敷堤防の美化活動の一環で植えている菜の花が毎年市民の目を和ませている。

平成15年 東郷公民館が優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける

東郷公民館は、地区内の自治会や団体を一つのネットワークにつなぎあわせ、地区の特産おつくね（おにぎり）をテーマにした‘まつり’を核として地域の人たちの心をつなにし、地域活動を展開している。

平成16年 啓蒙公民館が優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける

啓蒙公民館は、社会の情勢をいち早くキャッチした公民館活動を子どもからお年寄りまで幅広い層を対象に展開している。例として子どもや青年には食育等の現代的課題を、また公民館評価の課題については住民代表の公民館運営審議会で調査するなど先駆的取組をしている。

## 公民館メールマガジンのご案内

福井市の全公民館でメルマガ会員を募集中です。  
各公民館の「毎月の行事予定」「教室・催し」「お知らせ」  
など月に1～2回メール配信が届きますので、ぜひご活用  
ください。  
空メールを送るだけで簡単に登録できます。

右のQRコードを読み取って  
希望の公民館を選び、空メールを送信  
↓  
返信メールが届けば、登録完了です



※メルマガの登録は無料です。但し、メールの受信に要する  
ポケット通信料は発生します。

<このようなメールが毎月届きます>

〇〇公民館〇月  
行事予定のお知らせ☆♪

- 3日(木) 10:00～12:00  
子育てサロン  
「なんでも相談会」
- 12日(土) 13:00～  
運転者講習会  
「安全知識を習得しよう」
- 25日(金) 9:00～11:30  
環境美化研修会  
動きやすい服装でご参加  
ください！
- 公民館まつり〇月〇日開催  
展示作品を募集中！

## 第6号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
木田公民館	〒918-8105 福井市木田1丁目1401	(0776) 36-0042	kida-k@mx1.fctv.ne.jp
麻生津公民館	〒918-8183 福井市浅水三ヶ町1-93	(0776) 38-4383	asouzu-k@mx1.fctv.ne.jp
本郷公民館	〒910-3251 福井市荒谷町19-55	(0776) 83-0582	hongou-k@mx1.fctv.ne.jp

## 福井市の公民館 第6号編集委員

中央公民館運営審議会委員	稲田 勝子・鋸屋恵美子
生涯学習室	奥田 寛章
社会教育指導員	小林 修二・稲葉 友昭
	嶋田 直美
中央公民館	平馬 吉隆・小清水直美
	田村 榮子・塩崎めぐみ



# 公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞  
下総皖一 作曲

快活に ♩ = 104

一. へ いわの はるに あたらしく  
二. こ ころの はなの に おやかに  
三. は たらく ものの や すらかに

きょうどを おこす よろこびも こうみんかんの  
きょうどに ひらる たのしき も こうみんかんの

つどいからどき けあうこむろなごつと やかし  
つどいからどき けあうこむろなごつと やかし

いには じぶあゆんすのの あいさすみら たくとえよう

公民館の歌 (自由の朝)  
山口 晋一 作詞  
下総 皖一 作曲

一. 平和の春に あたらしく  
郷土を興す よろこびも  
公民館の つどいから  
とけあう心 なごやかに  
自由の朝を たたえよう

二. 心の花の におやかに  
郷土にひらく ゆかしさも  
公民館の つどいから  
希望を胸に 美しい  
文化の泉 くみとろう

三. 働くものの 安らかに  
郷土に生きる たのしさも  
公民館の つどいから  
まどいになごむ ひとときに  
明日への力 そだてよう

## 公民館の歌 自由の朝 について

昭和21年(1946年)7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受けて9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。

この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省(当時)、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

なお、作曲者の下総皖一は明道中学校、藤島高等学校の校歌を作曲しています。

## 福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室  
発行 平成28年10月  
福井市中央公民館  
〒910-0858  
福井市手寄1丁目4-1  
TEL 0776-20-5459  
FAX 0776-20-1538  
Eメール: cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp  
http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k